提出日：平成22年7月30日

「栗原市立大岡小学校・自主公開研究会」調査・視察報告書

篠澤　和久（東北大学大学院情報科学研究科　准教授））

調査･場所
情報活用型授業を深める会[会場　メディアテーク7階]
日程
2010 年 7 月 25 日（日）
参加者
篠澤和久(准教授)、小野寺香絵(技術補佐員)
目的
ICT活用による授業モデルとその実践研究の調査
概要および成果

概要

NHK デジタル教材『見える歴史』の活用方法をさぐる。

指導講師　稲垣 忠　准教授（東北学院大学）

（１）模擬授業「陸奥宗光～世界と対等な国へ～」

菅原 弘一（仙台市教育委員会・確かな学力育成室指導主事）

（２）実践報告「３人の武将と全国統一」

高橋 清　教諭（北仙台小学校）

尾張 由香 教諭（上野山小学校）

今回の内容については、以下のブログで詳しい報告がされている。参照してほしい。

https://pef2.office.drecom.jp/b0002/

報告およびコメント

今回の会は、NHK デジタル教材『見える歴史』を活用した模擬授業および実践報告であった。模擬、実践ともに、ICT 活用型授業を促進する上で、大いに参考になった。いつものことだが、このような教育活動に日夜努力している先生方には頭が下がる思いであった。

菅原先生からの情報提供によると（上記ブログを参照)、「仙台市標準学力検査や仙台市学習状況調査から、社会科については，分かる授業，魅力ある授業づくりという点で，課題があることが指摘されています」とのことであったが、その点で、菅原先生がまとめているように、このようなデジタル教材を有効活用することが喫緊の課題になると思われる。しかも、より大切なのは、その普及・浸透である。研究会レベルにとどまっているかぎり、デジタル教材は（デジタルであるがゆえに文字通り）「持ち腐れ」するほかはない。「情報活用型授業を深める会」の枠を越えて、広く活用の場と機会が増えることを切望する。この6月の講演会で鳴門教育大学の藤村先生がICT 活

用型授業における今後の方向性として示唆した点も、ここにかかっていると思われる。

なお、その活用に際しては、「完璧さ」「唯一性」を求めるべきではないと思われる。稲垣先生が最後にまとめたように、「児童の実態や教師のねらいに応じて」いくつかのバージョンを試みる作業を経ることが大切になってくる。ICT 活用型授業は、そうしたバリエーションをある意味で「容易に（楽に）」準備できる点に強みがあるはずだ。デジタル教材を利用する利便性は、まさにそこにある。この点をしっかり浸透させていくことが、今度の発展の鍵になるだろう。

そのうえで、今回の授業が「社会（歴史）」であったことを踏まえて、（今回の研究会には直接関係しないことだが）一点だけコメントを述べたい。それは、「歴史的事実（史実）」およびその「記述」と「解釈」に関するものである。これは限りなくやっかいな問題ではあるが、少なくとも教授する側としては、歴史叙述におけるレベル差は認識しておく必要があるように思われた。でないと、「歴史」は容易に「物語化」され、「大河ドラマ仕立て」の読み解きだけを助長しないともかぎらないからである。

菅原先生が前橋市で行なった模擬授業では、「この「時」だったら，陸奥でなく他の人でも条約改正には成功したのではないか？」という意見が出たようであるが、たぶんこうした問いを歴史の問題として扱うことは難しいのではないか。これは、そのような問いを封殺することを意図しない。むろん、想像力を高める意味では、国語や論理的思考の問題としては大いに活用できるが、やはり歴史の授業としてはどこかで区別すべきように思われる。問いの方向性を区別することによって、その内容への理解も深まると考える。その点で、仙台での模擬授業では、陸奥を外務大臣に選任した内閣の先見性にも注目すべきではないか、という意見が出されたが、このような問いであれば、歴史の問題として十分に調査、探求の対象になるだろう。

今回の模擬および実践でも確認されたように、歴史記述には総合性が求められる。しかしそれだけに、その総合性の視点がどのような意味で歴史記述としての総合性となりうるのか、そうした歴史に向き合う感性はしっかり育てていく必要があると思われる。